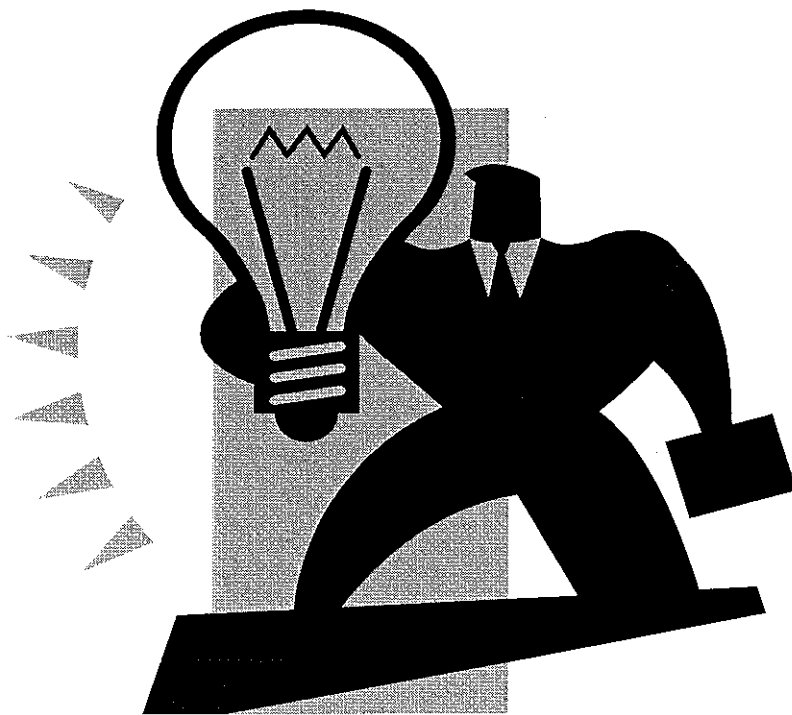


# 平成 21 年度実施 行政提案型協働事業報告書

	ページ
①花と緑のふれあい拠点（仮称）花のある景観づくり事業 …… 1 （明日の金田を創る会 農水産課）	
②防災フォーラムの開催 …… 11 （ひらつか防災まちづくりの会 防災危機管理課）	
③市民活動普及啓発事業 …… 21 （特定非営利活動法人みんなでつくる平塚 協働推進課）	
④男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業 …… 29 （平塚てづくり紙芝居の会 人権・男女共同参画課）	



平 塚 市



## A：協働事業評価シート

レ	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

事業名	花と緑のふれあい拠点（仮称）花のある景観づくり事業		
団体名 または事業担当課	明日の金田を創る会		
事業費	総事業費	134,459円	
	内訳	団体 0円	行政 134,459円

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価 (5段階)
① 事業の「目的は共有」できましたか。	4
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	4
③ 「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	4
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4
⑤ それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5

## (2) 事業「内容」の成果

評価項目	評価 (5段階)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
②事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	4
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
〔評価できない場合の理由：〕	

## ※評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(3) 協働事業についての振り返り(協働による効果、気づいた課題、改善の方向性等)

①協働事業を実施したことで「よかったところ」はどんなところですか。

1. 会が掲げる目標を効果的に実現する場ができ、活動の幅が広がったところ。
2. 会の活動や意向を行政の広報を通して広く知ってもらうことができ、改めて自らの活動に自信が持てたこと。

②「協議」について、反省点や課題などありましたか。

特になし。

③協働事業を「実施した中で」課題はありましたか。

作業日程の伝達について、年度当初は十分と言えなかったが、後に改善された。

④課題はどのように「改善」しましたか。また、「残された課題」はありますか。

「改善」

自治会、長寿会等を通して連絡網が確立され、動員力が高まった。

「残された課題」

ボランティアを含めた勉強会を開催し、知識・技術力の向上を図る。

⑤「その他」協働事業全体を通じて感じたことをご記入ください。

平成22年度も会と行政(農水産課)で花のある景観づくり事業を実施し、市の協働事業の先駆けとなるよう努めていきたい。

⑥今後の方向性(再確認)

- ① 今後も双方で実施
- 2、団体が単独で実施
- 3、行政が単独で実施
- 4、事業はいったん終了すべき
- 5、その他( )

A：協働事業評価シート

レ	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

事業名	花と緑のふれあい拠点（仮称）花のある景観づくり事業		
団体名 または事業担当課	農水産課		
事業費	総事業費	134,459円	
	内 訳	団体 0円	行政 134,459円

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価 (5段階)
① 事業の「目的は共有」できましたか。	4
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	4
③ 「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	4
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4
⑤ それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4

(2) 事業「内容」の成果

評価項目	評価 (5段階)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
②事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	4
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
〔評価できない場合の理由：〕	

※評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(3) 協働事業についての振り返り(協働による効果、気づいた課題、改善の方向性等)

①協働事業を実施したことで「よかったところ」はどんなところですか。

事業主体である「明日の金田を創る会」とは、金田地区において地域づくりを進める団体であり、行政（農水産課）と比べて柔軟性や迅速性があり、専門性を持った会員もいるので、事業を円滑に実施できるところ。

②「協議」について、反省点や課題などありましたか。

「明日の金田を創る会」と行政（農水産課）との協議については、円滑に進んだ。

③協働事業を「実施した中で」課題はありましたか。

「明日の金田を創る会」の活動場所と行政（農水産課）の事務所が離れていた為、日常的に情報や意見の交換をする継続的な関係を築くことが課題であった。

④課題はどのように「改善」しましたか。また、「残された課題」はありますか。

日常的に情報や意見を収集できるよう、定期的に会長や会員と話をした。

⑤「その他」協働事業全体を通じて感じたことをご記入ください。

「明日の金田を創る会」と行政（農水産課）が、きちんとした役割分担の上で事業を行うことにより、単独で実施するよりも効果的な活動ができた。  
平成22年度もより良い関係を築きつつ、事業を推進していきたい。

⑥今後の方向性（再確認）

- ① 今後も双方で実施
- ② 団体が単独で実施
- ③ 行政が単独で実施
- ④ 事業はいったん終了すべき
- ⑤ その他（ ）

## B：協働事業相互評価シート

レ	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

「A：協働事業評価シート」に基づき、話し合った内容をご記入ください。

事業名	花と緑のふれあい拠点（仮称）花のある景観づくり事業
-----	---------------------------

## (1) 協働の「視点」

「明日の金田を創る会」と行政（農水産課）で協議を重ねた結果、目的の共有、役割分担、双方の立場、相互効果等いずれもよく理解し、事業を実施することができた。

## (2) 事業「内容」の成果

1. 「古川の桜並木魅力アップ事業」として、古川排水路沿いの桜並木の周辺に、菜の花、マリーゴールド、ひまわり、チューリップ、パンジー等、四季折々の花々を植栽した。
2. 事業の目的・目標の達成、また景観の創造が果たされたと思う。
3. 散策等で「明日の金田を創る会」の活動を目にすることで、会に加入したいというボランティアが増加している。

## (3) 事業全体の振り返り（その他、双方で気付いた点をご記入ください。）

「明日の金田を創る会」の持つエネルギーと行政（行政）の支援がマッチして、効果的な1年間の活動ができたと思う。  
今後もより良い関係を継続して、事業を実施していきたい。

## (4) 今後の方向性（再確認）

- ① 今後も双方で実施
- 2、団体が単独で実施
- 3、行政が単独で実施
- 4、事業はいったん終了すべき
- 5、その他（ )

# 事業報告書

平成 22 年 3 月 31 日

(あて先)  
平塚市長

団体名 明日の金田を創る会

代表者氏名 山村 高治



平成 21 年度 (事業名) 花のある景観づくり事業について下記のとおり事業報告いたします。

## 記

実施日	事業内容
4 月 1 日	協定書、委託契約書、覚書の締結
5 月 19 日	草刈り (10 名参加)
5 月 31 日	草刈り、サルビア・マリーゴールドの植栽 (25 名参加)
6 月 1 日	草刈り、市長と現場視察・懇談会 (10 名参加)
6 月 4 日	草刈り (15 名参加)
7 月 4 日	草刈り、ひまわり・松葉ぼたんの植栽 (23 名参加)
7 月 30 日	役員会議
8 月 9 日	草取り、ポーチュラカ・マリーゴールドの植栽 (14 名参加)
8 月 18 日	草取り (11 名参加)
8 月 21 日	灌水 (2 名参加)
8 月 22 日	灌水 (3 名参加)
10 月 9 日	自治会・長寿会の回覧を通してボランティアの募集
10 月 17 日	草刈り、菜の花の播種 (21 名参加)
11 月 21 日	肥料播き、菜の花の播種 (16 名参加)、自治会の回覧を通して紫陽花の苗提供依頼
11 月 25 日	草刈り、パンジー花苗植え付け (20 名参加)
11 月 30 日	自治会の回覧を通して紫陽花の苗提供依頼
12 月 13 日	パンジーの植栽 (17 名参加)
12 月 16 日	4 団体による協働事業中間報告会
12 月 25 日	葉ぼたん・チューリップの植栽 (15 名参加)
1 月 21 日	パンジー・ムスカリ・ノウゼンカズラの植栽 (4 名参加)
2 月 13 日	紫陽花の植栽 (15 名参加)
2 月 14 日	紫陽花の植栽 (5 名参加)
2 月 16 日	ボランティア名簿整理 (2 月 16 日現在、71 名)
2 月 21 日	明日の金田を創る会 全体会議
2 月 28 日	花菜ガーデン見学会 (35 名参加)
3 月 24 日	役員会議
3 月 30 日	ダリア・グラジオラスの植栽 (36 名参加)



# 決算報告書

平成 22 年 3 月 31 日

(あて先)  
平塚市長

団体名 明日の金田を創る会

代表者氏名 山村 高治



平成 21 年度 (事業名) 花のある景観づくり事業について下記のとおり事業報告いたします。

## (収入)

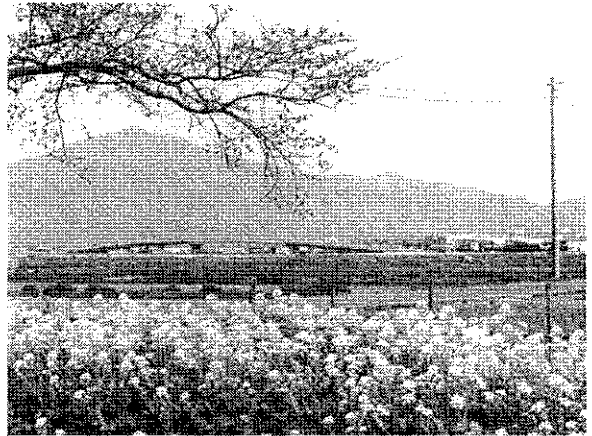
区 分	金額 (単位:円)	内訳 (内容、数量、単価など)
市からの委託料	134,500	草刈り経費、花類植栽経費、 土づくり経費、事務費
収入合計額	134,500	

## (支出)

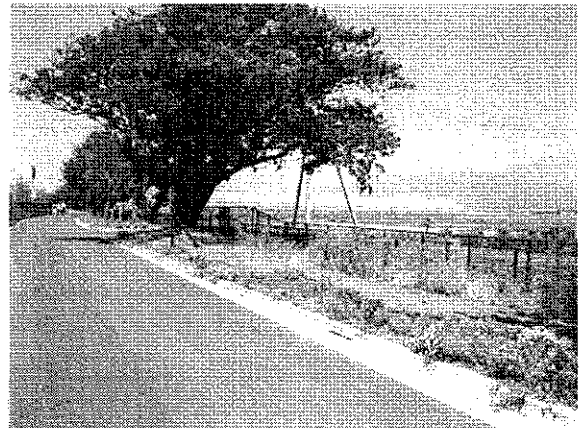
区 分	金額 (単位:円)	内訳 (内容、数量、単価など)
草刈り経費	55,716	耕運機燃料代 12,000円 草刈り等小農機具類 43,716円
花類植栽経費 (残地用植栽)	0	
花類植栽経費 (桜並木周辺植栽)	56,917	花苗代 43,000円 球根、種子等 13,917円
土づくり経費 (肥料代)	17,616	堆肥、化成肥料
事務費	4,210	コピー代、封筒等
支出合計額	134,459	

収入 134,500円 - 支出 134,459円 = 残金 41円  
残金 41円を平塚市に戻入いたします。

平成 21 年度 花のある景観づくり事業 写真



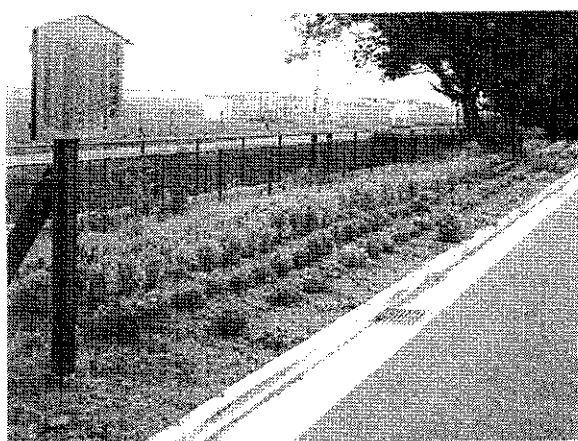
平成 21 年 4 月 5 日



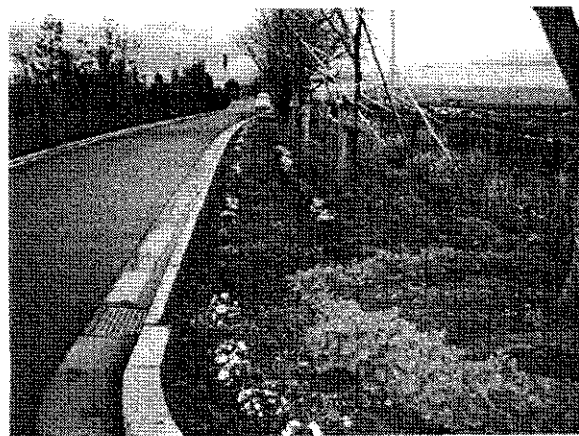
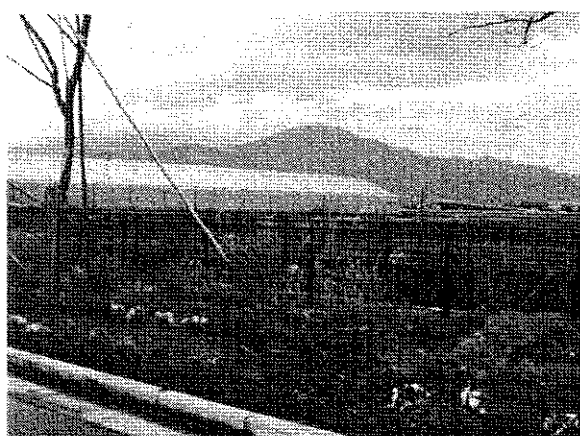
平成 21 年 5 月 20 日



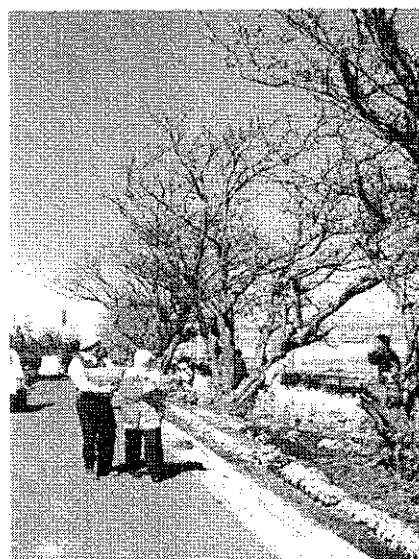
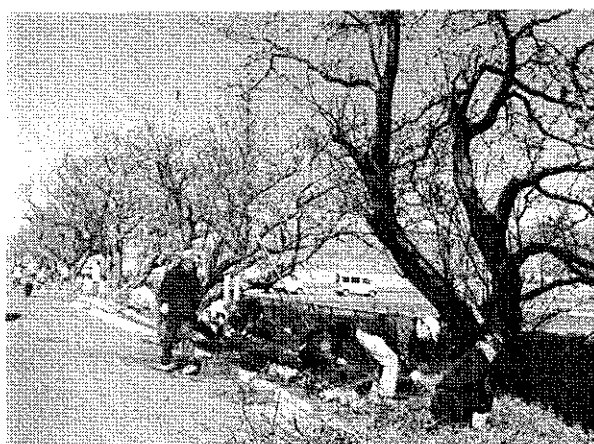
平成 21 年 6 月 18 日



平成 21 年 7 月 23 日



平成 22 年 1 月 9 日



平成 22 年 3 月 30 日



## A：協働事業評価シート

<input type="radio"/>	行政提案型協働事業
<input type="checkbox"/>	市民提案型協働事業

事業名	平塚市防災フォーラム		
団体名 または事業担当課	ひらつか防災まちづくりの会		
事業費	総事業費		
	内 訳	団体	行政 126,000 円

## (1) 協働の「視点」

評 価 項 目5	評 価 (5段階)
① 事業の「目的は共有」できましたか。	4
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	4
③ 「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	3
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	3
⑤ それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4

## (2) 事業「内容」の成果

評 価 項 目	評 価 (5段階)
① 業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
② 事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	4
③ 事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
(評価できない場合の理由：)	

## ※評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (3) 協働事業についての振り返り(協働による効果、気づいた課題、改善の方向性等)

①協働事業を実施したことで「よかったところ」はどんなところですか。

- 1) 協働事業であったことで、行政の信用を背景に活動できたこと。  
具体的には、地域アンケートでは76%という回答率を得、地域インタビューでは地域の方々に快く応じて頂いた等のことがある。  
地域訪問等で行政と一緒にの場面では、地域の方々の表情が違うことも感じられ、今回の事業から地域がいかに行政を信用し頼りにしているかをつくづく感じた。
- 2) フォーラムに向けての地域アンケートの結果として地域の方々の抱える課題やさまざまな工夫を統計的に把握することができたこと。  
これは、今回の事業の大きな成果であったと考えている。
- 3) フォーラムまでの協働の過程と結果から、危機管理課・協働推進課と団体との間に新たな信頼関係が生じた、と感じられること。

②「協議」について、反省点や課題などありましたか。

- 1) 協議回数  
20年度11月から3月までの間に4度行われ、21年度には、4月・6月・11月・1月・3月に行われた。回数としては少なくないと思う。
- 2) 調整  
危機管理課からの募集内容・ひらつか防災まちづくりの会の提案内容の相違が協議の上でも後々まで尾を引くものになったこと。  
募集内容（防災講演会）と、提案内容（防災フォーラム；アンケート実施・防災お手伝い懇談会を含む）では、仕事量等にもかなり相違があったが、こうした相違に、調整の機会がないままの審査採択であったこともその要因のひとつになったと思う。
- 3) 募集採択までの期間  
行政提案型事業募集と説明会は9月初旬、団体からの提案は10月初旬、公開審査採択は10月中旬過ぎ。この時期についても改善の余地があると思う。  
・ひと半月という期間は、行政・団体間での事前調整が行える期間としても短すぎたように思う。  
・毎週会合を持つわけではない市民活動団体にとっては、相当に短い期間だったと言える。団体内部での応募内容調整（意識合わせ・意見調整）の時間的余裕が十分であったかどうかにも疑問が残らない。  
・採択以前、事業開始以前の段階で、目標・方針等、双方の考えるところについて意見交換を行う、協議を重ねておくなど、事前の過程があればかなりスムーズに運んだのではないかと思う。
- 4) 相互理解と情報共有（双方のスタンスについて）  
今回の事業は、地域の方々にご協力をお願いすることも多く、地域向けアンケート発送・依頼文書作成等については、行政の方針もあり、ひな型文書もあり、団体内部だけでは決めかねることも少なくなかった。（今回は団体が作成して行政から手直しを頂いた形）  
行政との協働であると同時に地域への依頼も多かったこの事業であるが、地域状況や行政の立場等々、情報や状況をよく把握できていないままの団体側の動きであった為に、後に調整や修正が必要、という場面も少なくなかったように感じている。

③協働事業を「実施した中で」課題はありましたか。

1)、事業の進め方

行政（段階を踏んで進む）と、任意の団体（場面によっては方針方法を変更する）には、ステップ（進め方）に相違があると思う。この違いをいかにすり合わせて進めるかが今後の課題のひとつであると思う。

2) 行政団体間の信頼関係

事業を進める過程で信頼関係が生まれてくることを実感している。しかし、それが生まれるまでの過程では双方が互いのスタンスをよく理解し合えないまま、手探りし合っている感があった。

3) 情報の共有と協働

団体側には地域情報（地域の状況や考え方等）があまりない為に、方針を決めにくかったり、団体内の意見がまとまりにくいという場面があったこと。行政の立場としては地域情報流出への配慮があったかと思う。しかし、地域の備蓄状況、各自治会から出てくる防災計画など行政がつかんでいる情報も出して頂ければと思う場面も少なくなかった。情報流出への配慮はどこまでかということについて、ある基準があると、協働もスムーズではないかと思う。

◎自治会への依頼文書等、講師への依頼状等について

◎防災計画 自治会⇒行政（情報）

④課題はどのように「改善」しましたか。また、「残された課題」はありますか。

繰り返し危機管理課に伺う、メールでお尋ねする方法で、連絡を密にする、行政の意向を踏まえた上で団体側にできることを進めるようにする、等を心がけた。

また、今回の事業では地域にお願いすることも多かった為に、協働推進課からも多大な協力を頂いた。今回の協働事業は、危機管理課・協働推進課・まちづくりの会三者の協力により成り立ったものであると思う。

⑤「その他」協働事業全体を通じて感じたことをご記入ください。

協働事業をスムーズに進める為には、行政・団体間の信頼関係が必須であり、相互の立場や考え方や得意分野を尊重し合い、すり合わせようとする協力体制と、調停が重要であると強く感じた。

また、協働事業の結果として生まれたものをいかに活用するかされるかということも、次へのステップの活力を生み出す力になると思う。

⑥今後の方向性（再確認）

1、今後も双方で実施

2、団体が単独で実施

3、行政が単独で実施

4、事業はいったん終了すべき

⑤ その他（22年度行政提案型協働事業防災フォーラムとして実施）

## A：協働事業評価シート

<input type="radio"/>	行政提案型協働事業
<input type="checkbox"/>	市民提案型協働事業

事業名	防災フォーラムの開催		
団体名 または事業担当課	防災危機管理課		
事業費	総事業費	126,000円	
	内訳	団体 円	行政 126,000円

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価 (5段階)
① 事業の「目的は共有」できましたか。	4
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	3
③ 「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	3
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4
⑤ それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4

## (2) 事業「内容」の成果

評価項目	評価 (5段階)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
②事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	4
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
〔評価できない場合の理由：〕	

※評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった



(3) 協働事業についての振り返り(協働による効果、気づいた課題、改善の方向性等)

①協働事業を実施したことで「よかったところ」はどんなところですか。

防災フォーラムの目的であった地域の取り組みの紹介では、市内の先進的な取り組みを行なっている団体、自主防災組織を紹介することができ、他の組織の見本とすることができた。

②「協議」について、反省点や課題などありましたか。

協議の当初には、防災フォーラムを開催するまでの各取り組みに関して理解がされていなかった。

基調講演講師の選定、アンケートの発送までは、顔を合わせた協議であったが、それ以降は、メール・電話で連絡を取り合うことが多くなった。

③協働事業を「実施した中で」課題はありましたか。

役割分担では、地域懇談会等で地域に出向くことになっていたが、なかなか予定が合わず協働で参加する機会が少なかった。

④課題はどのように「改善」しましたか。また、「残された課題」はありますか。

地域に出向く時期は夏季から秋季にかけてとなる。この時期は、自主防災組織の防災訓練が盛んに行なわれる時期と重なり、訓練指導に職員を派遣するにも苦慮している。

年度当初に各自主防災組織から訓練の計画が提出されるので、予め提出された計画の情報を団体に知らせて協働で参加できる訓練等を選定する。

⑤「その他」協働事業全体を通じて感じたことをご記入ください。

市民活動団体は、熱意と意識が高く細かい部分まで研究していると感じるとともに多方面に色々と人のつながりを持っていると感じた。

活動団体内部での協議がなされないままに、意見が出て来ているよう思えることが度々あった。

⑥今後の方向性(再確認)

- 1、今後も双方で実施
- 2、団体が単独で実施
- 3、行政が単独で実施
- 4、事業はいったん終了すべき

⑤ その他(平成22年度まで双方で実施)

## B：協働事業相互評価シート

<input type="radio"/>	行政提案型協働事業
<input type="checkbox"/>	市民提案型協働事業

「A：協働事業評価シート」に基づき、話し合った内容をご記入ください。

事業名	平塚市行政提案型協働事業「平塚防災フォーラム」
-----	-------------------------

## (1) 協働の「視点」

「地域の防災力を上げる」という事業目的を共有し共通認識のもと事業を開始したが、事業開始時は、防災力を上げる手法の認識に違いがみられ、協議不足が感じられた。しかし、フォーラムに向けて話し合いを重ねていき、全自治会へのアンケート、地域インタビューなどを通じて、事前に市民目線で課題を抽出し、フォーラムにおいて先進的な自治体の取り組みを紹介できたことは、他の自治会への防災意識高揚につながった。

## (2) 事業「内容」の成果

フォーラム開催にあたって、事前に全自治会に対しアンケートを実施し、地域の抱えている課題を抽出し、自治会からパネリストを選出し、地域が地域の防災力を上げるために何が必要か提起することができた。また、参加者同士が、近隣自治会の取り組み、抱えている課題を認識し共有することができ、フォーラムを通じて地域に防災力向上の芽生えが出てきた。

## (3) 事業全体の振り返り（その他、双方で気付いた点をご記入ください。）

事業前半では、協議する事項があり話し合いの場が多く持たれたが、中盤以降、双方の役割分担の下、事業を遂行してきたが、地域の芽生えを伸ばすことを考えれば、いろいろな場面でもっと協力し合えたのではないかと思われる。

## (4) 今後の方向性（再確認）

- 1、今後も双方で実施
- 2、団体が単独で実施
- 3、行政が単独で実施
- 4、事業はいったん終了すべき
- ⑤ その他（平成22年度行政提案型協働事業防災フォーラムとして実施）



(あて先)  
平塚市長 大蔵 律子 様

団体名 ひらつか防災まちづくりの会

代表者氏名 篠原 憲一



平成 21 年度 (事業名) 平塚市行政提案が対協働事業平塚市防災フォーラム  
について下記のとおり事業報告いたします。

記

<実施日> 平成 22 年 2 月 7 日 (日) 中央公民館大ホール

<事業内容>

危機管理課募集の防災講演会を防災フォーラムとして提案、採択され実施した。  
◆防災フォーラム「わが地域の防災の取り組み」～支え合う地域をめざして～

※ 参加者 380 名 (危機管理課調べ)

- ・ 基調講演；名古屋大学大学院 福和伸夫教授  
「足元を点検し、わが家わが町の防災対策を考える」
  - ・ パネラー；平塚ニューライフ自主防災会・須賀新田自治会・宮松町自治会・旭陵学区教育力ネット  
ワーク推進協議会
  - ・ コーディネーター；時事通信社防災リスクマネジメント WEB 編集長 中川和之氏
- ※地域アンケートの簡単な説明も行った。  
※フォーラム感想アンケート・決意表明ポストイットの実施。

◆2009 年度 11 月～3 月 事業契約に向けた事前協議  
出席；ひらつか防災まちづくりの会・危機管理課・協働推進課

◆4 月 アンケート「わが地域の防災の取り組み」作成。  
アンケート内容 危機管理課に相談、協議の機会を頂いた。

※ アンケートの目的

- ・ パネラー地域の選出選考
  - ・ 防災の取り組みの様子把握
  - ・ 地域訪問 (お手伝い・防災懇談会) のきっかけ
  - ・ こんな訓練や方法もあったかとの気付き
- ⇒ 内容を欲張ったため、雑多になったとも言えるかもしれない。

◆5 月 アンケート実施 (5 月末回収締切) 対象；平塚市全地域 236  
協働推進課を通じて平自連に協力を依頼、行政ポストを通じて地域に発送、5 月末締切、  
危機管理課への返送。危機管理課はこれらをまとめ、防災まちづくりの会へ。  
アンケート結果は回収順にパソコン入力、最終アンケートの返却(6 月 10 日過ぎ) と同時に終了。  
⇒ 6 月中旬より地域選考へ

☆回収数 179 / 236 地域 (有効回答数 176)

- ・ 75%の回収率は、行政への地域の信頼の高さを示していると思われた。
- ・ 行政からのアンケートだと考えての回答も少なくなかった。(依頼・要望等もあった)。
- ・ 電話等の地域リサーチを行った 6 月中旬～7 月末頃には地域では、年間行事計画が既に決まっており、お断りを受けた地域も少なくはなかった。(2 地域×2 予定の地域防災懇談会は実施できず)
- ・ 連合会単位での回答地域も複数あった。⇒連合会で動いている地域も少なくない。

※ アンケートの結果から…

- ・ 過去 5 年間の取り組み〇つけ欄から  
「防災意識啓発」防災講話・防災ニュース・市の防災体制の説明の順に多く、  
「実技訓練」消火訓練・三角巾講習・起震車体験・避難所への避難・救出救助搬送法の順。  
「状況把握」避難所運営方法・要援護者把握・防災まちあるきの順。  
支援者把握と回答した地域が 20 と予想外に多かったことが眼を惹いた。  
「仕組」連絡体制の整備・発災時マニュアル作成・協働 (消防団・商店) の順。
- ・ 自由記入欄から  
地域の共通課題・独自の課題が浮かんで来、一方、地域に即した工夫で上手に課題解決を行っている地域が平塚にもかなりあることが窺われた。  
\*しかしながら、そうした地域情報の共有や共有の機会が少ないらしいことも感じられた。

### ※アンケートの分析

神奈川県全地域の防災の取り組みを調査しておられる神奈川県工学部荏本教授・山本先生に、アンケートの分析をお願いすると共に、平塚の揺れ易さ・神奈川県における平塚の位置をお教え頂いた。

⇒⇒自主防災会の組織率が100%である平塚市は、神奈川県全域でも最も揺れ易い地域。

一方、平常時の取り組み・被災後の対応力においては、神奈川県総合評価に比して優れている。

### ※アンケート結果の地域還元

7月；アンケート結果をまとめ、平自連へ報告と共に挨拶に伺った。

12月；アンケート結果を四ブロックに分けてまとめ、協働推進課ポストを通じ、平塚市全地域へ発送した。

\*アンケートまとめに当たっては、協働推進課職員(市民活動センター・本庁共)から多大なご協力を頂いた。

### ※地域アンケート回答・インタビュー結果から

「防災は大切だと思っているが役員は交代制、年間行事に忙しくとても防災まで手が回らない」「防災専任がないから進まない」「マンネリ化したものでない訓練を知りたい」「効果的な意識啓発の方法を教えてください」「何をしてもいいかわからない」、「他地域はどのようなことを行っているのか」、このような声が訪問結果やアンケートから聞かれ、地域の悩みを実情を象徴するもののように思われた。一方、各々地域で、さまざまな工夫した取り組みが行われていることも覗えた。

### ◆6月～9月 アンケート回答に基づく地域リサーチ。

防災お手伝い・懇談会・インタビュー等の要請があった40地域にまず、電話リサーチを行った。要請の様子からさらに時期・場所・ご要望の内容を伺い、数度の打ち合わせの後の実施とした。

※パネラー地域選考に当たって危機管理課・協働推進課との協議の機会を頂いた。

### ◆7月～翌年3月 訪問・お手伝い・インタビュー等の実施

訪問インタビュー地域中から選考、フォーラムパネラーへの依頼

### ※地域との打ち合わせ

打ち合わせ訪問時、「地域のことなので」との意向から協働推進課地域担当職員の同行を頂いた。

行政の同行がこの事業への信用を頂く結果となったことが、地域の方々の言葉の端々から窺われた。

### ※お手伝い・インタビュー等の実施は以下11地域。

このうち四地域がパネラー参加をご承諾下さった。

(下線は、訪問は行わず、市民活動センターでインタビューを行った地域)

錦町自治会・宮松町自治会・真田ウッドパーク自治会・高根自治会・チュリス平塚自治会・平塚ニューライフ自主防災会・須賀新田自治会・桜ヶ丘自治会・明石町自治会・五区町内会自治会・めぐみが丘自主防災会・旭陵学区教育力ネットワーク推進協議会

～地域防災コーディネーター養成講座～(21年度行政共催講演会；1月24日)

21年度防災フォーラムに向け、地域防災コーディネーター養成講座(午前午後一日の講座)を開催した。(定員40名参加者数58名)

### 【内容】

午前；基調講演；平塚市の揺れ易さ、人的ネットワークを駆使した防災まちづくり

横浜・大井町の防災まちづくり事例紹介

昼休憩；平塚市非常食試食(協力；平塚市料理飲食業組合連合会)

午後；ワークショップ「クロスロード」(分かれ道の意)

### 【結果】

参加者の多数からアンケートへの回答を頂いた、

今後もこのような講座を継続開催してほしい・他地域の事例が非常に参考になった、さらに知りたい・クロスロードが参考になった・平塚の様子が知りたいなど

\*協力；横浜「防災塾・だるま」(塾長；神奈川県工学部 荏本孝久教授)

平塚市料理飲食業組合連合会

### ◆21年度防災フォーラムを振り返って

※フォーラムまでの取り組みで、地域の抱える共通の課題、独自の課題が浮かぶと共に、各々の実情にあわせた工夫で課題解決を図っている地域も多いことがわかった。これらの情報を結んでいきたい。

※フォーラムで、名古屋大学大学院工学系の福和先生の耐震の講演から、コト(真実・足元)を知ること・ヒトづくり・モノづくりの大切さ、わがことと納得して行動が生まれる、等のことが学ばれた。四名のパネラーのお話とパネルディスカッションからは、各々の課題をどのように解決しているかを伺うことができ、フォーラム参加者には多少なりのヒントを得るものになったのではないかと。

※フォーラムの「アンケート」・「決意表明ポストイット」から

多くの方々から寄せられた回答には、福和先生のお話に非常に感銘を受けた、パネラーのお話が参考になった、との記入が多かった。なお、フォーラム参加者は行政ポスト地域情報による方々が最も多いこともわかり、フォーラム広報の方法への工夫が必要だと思われた。

※今年度の結果を、来年度フォーラムに、また、平塚の「防災」「まちづくり」に活かせるよう、今後の方針や方法を考えていきたい。

# 決算報告書



平成 22 年 3 月 31 日

(あて先)  
平塚市長 大藏 律子 様

団体名 ひらつか防災まちづくりの会

代表者氏名 篠原 憲一



平成 21 年度 (事業名) 平塚市行政提案型協働事業「平塚市防災フォーラム」  
について下記のとおり決算報告いたします。

## (収入)

区 分	金額 (単位: 円)	内訳 (内容、数量、単価など)
市からの委託料	70,000円	講師講演料・交通費
	56,000円	講演までの準備にかかる費用
収入合計額	126,000円	

## (支出)

区 分	金額 (単位: 円)	内訳 (内容、数量、単価など)
基調講演講師謝礼	50,000円	名古屋大学大学院 福和伸夫教授
基調講演講師交通費	20,000円	講師交通費
パネラー (4名)・コ ーディネーター謝礼	25,000円	5000×5 (交通費含む)
事務費	25,880円	事務費 (印刷費用)・諸雑費等
交通費	5,120円	自治会訪問・手伝い等
支出合計額	126,000円	



## A：協働事業評価シート

<input type="radio"/>	行政提案型協働事業
<input type="checkbox"/>	市民提案型協働事業

事業名	市民活動普及啓発事業		
団体名 または事業担当課	NPO法人 みんなでつくる平塚		
事業費	総事業費	110,000 円	
	内 訳	団体 0 円	行政 110,000 円

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価 (5段階)
① 事業の「目的は共有」できましたか。	2
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	2
③ 「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	2
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	2
⑤ それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	3

## (2) 事業「内容」の成果

評価項目	評価 (5段階)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
②事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	5
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	/
〔評価できない場合の理由： すぐに効果が得られるものではないと考える。満足度というものの 基準が個々によりちがい明確でない。〕	

## ※評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(3) 協働事業についての振り返り(協働による効果、気づいた課題、改善の方向性等)

①協働事業を実施したことで「よかったところ」はどんなところですか。

成果物(冊子)ができたこと。

②「協議」について、反省点や課題などありましたか。

協議する時間が双方の事情でとりにくかった。  
協議をする以前に、お互いが、どういうものかという理解が足らなかった。

③協働事業を「実施した中で」課題はありましたか。

協働という意味が明確でないこと。

④課題はどのように「改善」しましたか。また、「残された課題」はありますか。

- ・お互いを理解し合って、協働の意味を考えて事業を進めることの大切さ。
- ・市民活動団体の作業に費やす時間への対価。

⑤「その他」協働事業全体を通じて感じたことをご記入ください。

協働、もしそれが対等という意味を含むなら、行政は、いろいろな基準(例えば、事業費の使い方、契約の在り方等)を従来のものにすべてあてはめて判断することを、見直してみたらどうだろうと感じました。

⑥今後の方向性(再確認)

- ① 今後も双方で実施
- 2、団体が単独で実施
- 3、行政が単独で実施
- 4、事業はいったん終了すべき
- 5、その他( )



平成22年5月

## A：協働事業評価シート

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

事業名	市民活動普及啓発事業			
団体名 または事業担当課	協働推進課			
事業費	総事業費	110,000 円		
	内 訳	団体	円	行政 110,000 円

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価 (5段階)
① 事業の「目的は共有」できましたか。	3
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	2
③ 「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	2
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	3
⑤ それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	3

## (2) 事業「内容」の成果

評価項目	評価 (5段階)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
②事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	5
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	
〔 評価できない場合の理由： 受益者が特定できないため。 〕	

## ※評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(3) 協働事業についての振り返り(協働による効果、気づいた課題、改善の方向性等)

①協働事業を実施したことで「よかったところ」はどんなところですか。

多くの方が参加した講座があり、多くの方に市民活動の楽しさを知ってもらうことができた。また、事業の内容をまとめた冊子を作成したことで、講座に参加していない方へも、その内容を伝えることができる。

②「協議」について、反省点や課題などありましたか。

協議を行う中で、事業の内容についての打合せが充分とは言えなかった。

③協働事業を「実施した中で」課題はありましたか。

事業の実施について「みんなでつくる平塚」に全面的にお任せしたことで、負担をかけてしまった。

④課題はどのように「改善」しましたか。また、「残された課題」はありますか。

負担をかけたことについては、改善できなかった。

⑤「その他」協働事業全体を通じて感じたことをご記入ください。

全体を通じて、行政側がもっと積極的に関わっていく必要性を感じた。  
今後、事業の内容をまとめた冊子を、より多くの方が市民活動に興味を持っていただくよう活用していきたい。

⑥今後の方向性 (再確認)

- 1、今後も双方で実施
- 2、団体が単独で実施
- 3、行政が単独で実施
- 4、事業はいったん終了すべき

⑤ その他 (年代や分野など対象者を絞り込んだ事業を検討したい。)

## B：協働事業相互評価シート

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

「A：協働事業評価シート」に基づき、話し合った内容をご記入ください。

<b>事業名</b>	市民活動普及啓発事業
------------	------------

**(1) 協働の「視点」**

団体と行政では立場が異なっているので、事業を実施する前に、協働で行うことの「目的」と「利点」をきちんと整理することが必要である。

また、この「目的」と「利点」を双方が理解した上で、事業の具体的な内容の打合せを行っていくことが重要である。

さらに、実施していく過程の中で、さまざまな課題が出てきた時に、双方で十分に話し合って解決を図ることが大切である。

**(2) 事業「内容」の成果**

一連のシリーズとして講座を実施して、多くの参加者を得られたことで市民活動の普及啓発が図られた。

また、その中で、参加者の幾人かが市民活動を始めるきっかけとなった。

事業を冊子にまとめたことで、この事業に参加できなかった人に対しても、市民活動を理解し、市民活動へ参加するきっかけづくりとなる資料ができた。(この冊子についてはボランティア博覧会など市民啓発活動の中で利用したい)

**(3) 事業全体の振り返り（その他、双方で気付いた点をご記入ください。）**

講座を周知させる広報活動を始め、運営の細かな部分でも双方で十分に時間をかけて話し合うべきだった。

様々な団体の様子をお互いを知ることで、団体同士の助け合いの必要性などを考える機会になった。

市民活動を行うには、その根底に、市民活動が自分たちの地域に目を向けることになり、それが平塚市を良くしていくことに繋がるのだという思いが大切だと改めて感じた。

**(4) 今後の方向性（再確認）**

- ①、今後も双方で実施  
(来年度(2011年度)と限らず、機会があれば実施したい。)
- 2、団体が単独で実施
- 3、行政が単独で実施
- 4、事業はいったん終了すべき
- 5、その他 ( )

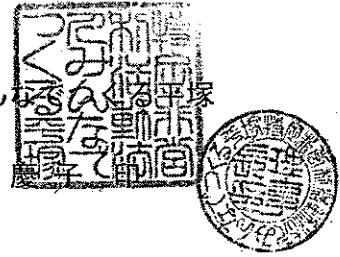
# 事業報告書

平成22年3月31日

(あて先)  
平塚市長

NPO法人 みんなでつくる平塚

理事長 端山



平成21年度 行政提案型協働事業「市民活動普及啓発事業」について下記のとおり事業報告いたします。

## 記

実施日 事業内容	6月19日(金) 「市民活動30年+α年の話を聞こう」の開催(参加者44名) 市民活動にいち早くから取り組んでいらした端山慶子氏から活動に至ったきっかけや、活動内容、また市民活動の在り方のひとつについて話を聞いた。
実施日 事業内容	7月24日(金) 「市民活動真っ最中のお二人 小山昇さん、寺山泰郎さんの話を聞こう」の開催(参加者31名) 「のら猫を減らす会」の小山昇氏と、「湘南ヘルスケアネットワーク21」の寺山泰郎氏から、定年退職後に出会ったまた構想を温めていた市民活動に現在熱中する理由、市民活動の重要性などについて話を聞いた。
実施日 事業内容	8月8日(土) 「歩く箱根山の会」と一緒に歩こう 「みんなでつくる平塚」のメンバーと市民及び協働推進課職員が「歩く箱根山の会」の8月例会に参加した。8月例会の内容は箱根芦ノ湖畔のゴミ拾いとバーベキューであり会員相互の和気藹々とした活動の楽しさを味わった。 また9月1日に「歩く箱根山の会」の代表・添田公一さんに「みんなでつくる平塚」の理事・横溝昌子が会の歴史や詳しい活動の内容等インタビューをした。
実施日 事業内容	9月5日(土) 「居場所ほのぼのをつくる会」の活動を体験 「みんなでつくる平塚」のメンバーと市民及び協働推進課職員が「居場所ほのぼのをつくる会」の活動に参加し、参加者と交流を図った。
実施日 事業内容	10月3日(土) 「市民活動フォーラム」の開催(参加者20名) コーディネーター: 笹尾清美氏 (みんなでつくる平塚) パネリスト: 栗田直枝氏 (働く犬を支援する会) 大嶋朝香氏 (ひらつかエネルギーカフェ) 中野恵子氏 (国際ひろば 和の輪) 山腰高稔氏 (おもちゃの病院ドクターくるりん) 諸山朝子氏 (本の寺子屋ひらつか)

まずパネリストから活動内容を聞いた。次に市民活動に対する思い、また行政の支援の在り方等を会場の市民も参加しディスカッションをした。

実施日 11月14日(土)

事業内容 交流会「さあ、一歩踏みだそう」の開催(参加者21名)  
手づくり食工房を会場に手料理等を囲み、交流会を開催。歓談と意見交換を行った。市民活動に無縁だった方の参加があり市民活動への一歩が伺えた。

上記の事業を実施し、市民活動の重要性や面白さを多くの人に伝え、市民活動の普及啓発を図った。

また、事業の内容を冊子にまとめ、多くの方々に市民活動を理解していただくとともに、参加へのきっかけづくりとする。

# 決算報告書

平成 22 年 3 月 31 日

(あて先)  
平塚市長

団体名 NPO 法人 みんなて回る平塚

代表者氏名 端山慶子 印

平成 21 年度(事業名) 行政提案型協働事業・市民活動普及啓発事業  
について下記のとおり決算報告いたします。

(収入)

区 分	金額 (単位:円)	内訳 (内容、数量、単価など)
市からの委託料	110,000	
収入合計額	110,000	

(支出)

区 分	金額 (単位:円)	内訳 (内容、数量、単価など)
講師謝礼	50,000	5,000×10名=50,000
交流会費用	15,000	会場費 6,000円 食材費 9,000円
小冊子作成費	30,000	
チラシ等広報活動費	5,000	
会員交通費	7,300	
雑費	2,700	切手代 540円 通信費 66円 10/3 フォーラム お茶代 594円 駐車場代 1,500円
支出合計額	110,000	

## A：協働事業評価シート

<input type="radio"/>	行政提案型協働事業
<input type="checkbox"/>	市民提案型協働事業

事業名	男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業		
団体名 または事業担当課	平塚てづくり紙芝居の会		
事業費	総事業費	79,309円	
	内 訳	団体 0円	行政 79,309円

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価 (5段階)
① 事業の「目的は共有」できましたか。	3
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	4
③ 「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	4
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4
⑤ それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4

## (2) 事業「内容」の成果

評価項目	評価 (5段階)
① 事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
② 事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	3
③ 事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
〔評価できない場合の理由：〕	

## ※評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(3) 協働事業についての振り返り(協働による効果、気づいた課題、改善の方向性等)

①協働事業を実施したことで「よかったところ」はどんなところですか。

- ・行政と市民団体が、相互理解をすることができた。
- ・紙芝居を子供たちが観てくれ、反応が良かった。演者、子供たち共に楽しむことができ、子供たちの共感を得ることができた。
- ・市と協働することで市民から信頼され、市民団体としての活動範囲を広げることができた。
- ・みんなでひとつの作品を作れたのは初めてで収穫だった。

②「協議」について、反省点や課題などありましたか。

- ・お互いに期待していることが異なっていたが、最初の時点でお互いの期待を明確にすべきであった。
- ・初年は難しかったが、市と団体の組織は大きく性質が異なるので、出来ること、出来ないことをはっきり認識しておく必要がある。話し合うことが大切であり、どの部分がどのように駄目なのか、明確に示すことが大切である。

③協働事業を「実施した中で」課題はありましたか。

- ・製作期間が短く、時間的な制約を受けることが大変苦痛であった。事業が始まってから協働事業から抜ける会員がいて苦しくなった。物理的・精神的に自由な製作と上演というわけにはいかないの、市民団体全体に協働の意識を浸透させることが必要になるが、ボランティアを「趣味」「楽しみ」を兼ねてやっている人を説得するのは難しかった。
- ・男女共同参画の意図を理解することが難しかった。(市担当者が脚本を示してくれたので良いアイデアが出てきた。)
- ・紙芝居の性質上(直接コミュニケーション、共感性)相手(こども)との距離が近くなる。しかし、行政の立場(啓蒙・教育)を考えると「市民の目線で演じる」だけではすまない面もある。

④課題はどのように「改善」しましたか。また、「残された課題」はありますか。

- ・ひとつの紙芝居に取材、資料集め、脚本、絵付け、何度も練り直し、一年以上かけて、良い作品だと納得できるものを作る。一年以内に製作・上演したが、つめが足りなくて申し訳ないという悔いが残った。
- ・話し合っ問題解決してきたため、残された課題はあまりない。

①「その他」協働事業全体を通じて感じたことをご記入ください。

- ・話し合うことで、お互いの妥協点を見つけていくことが大切である。
- ・話し合いのなかで、相手に期待することをはっきり伝えることが大事である。
- ・1作品を作り上げるのに約延べ100時間もの労力を使っている。そのため、委託料の中から謝礼や講師お茶代を出せるようにしてほしい。
- ・「まちづくり」の一環として協働にかかりたいという一部の人の情熱に支えられているのが平塚の協働の現状だと思う。「仕事」のようだが「仕事」でない



ことに多く時間や労力、不足資金（講師の飲食費など）を投入してやるのにはモチベーションが必要だ。継続してやりたいと思うようなしかけが必要で、現状のままでは近い将来息切れすると思う。

⑥ 今後の方向性（再確認）

- ①、今後も双方で実施
- ②、団体が単独で実施
- ③、行政が単独で実施
- ④、事業はいったん終了すべき
- ⑤、その他（ )

## A：協働事業評価シート

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

事業名	男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業		
団体名 または事業担当課	人権・男女共同参画課		
事業費	総事業費	79,309円	
	内 訳	団体 0円	行政 79,309円

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価 (5段階)
① 事業の「目的は共有」できましたか。	4
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	3
③ 「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	4
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4
⑤ それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4

## (2) 事業「内容」の成果

評価項目	評価 (5段階)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
②事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	5
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
(評価できない場合の理由：)	

## ※評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(3) 協働事業についての振り返り(協働による効果、気づいた課題、改善の方向性等)

①協働事業を実施したことで「よかったところ」はどんなところですか。

- ・保育園児や幼稚園児に対して分かりやすく、かつ啓発効果のある作品を作ることができた。
- ・団体と行政との、考え方や仕事の進め方の違いを、シナリオ作成を通して理解することができ、信頼関係が生まれた。
- ・実演において、保育園児、幼稚園児、先生方にも楽しく男女共同参画を理解してもらうことができた。

②「協議」について、反省点や課題などありましたか。

- ・お互いの立場の違いを理解することが大切であり、当初から役割分担を明確にしておいた方がよい。
- ・話し合うことが大事であり、相手に期待することをはっきりさせておくことが事業のスムーズな実施に繋がる。

③協働事業を「実施した中で」課題はありましたか。

- ・作品を製作する段階で、団体の方はその専門性から妥協を許さないところがあり、行政は費用対効果や効率性を考慮しながら仕事をするので、「時間」に対する感覚に違いがあった。
- ・行政は団体の代表者を通じて意思疎通をすることが多く、代表者が理解しても団体全員が理解しているわけではなかった。

④課題はどのように「改善」しましたか。また、「残された課題」はありますか。

- ・団体全員と行政が集まった席で、考え方の違いや問題点を協議し、妥協点を見出した。
- ・平成22年度は、脚本案を市が提示することを契約内容に含め、団体が協働事業に費やす時間を減らし、負担の軽減をする。

⑥ 「その他」協働事業全体を通じて感じたことをご記入ください。

- ・考え方の違いや立場の違いを理解するためには、話し合うことが協働には必要である。
- ・どちらかが合わせるのではなく、双方の妥協点を見つけていくことが大事である。

⑥ 今後の方向性 (再確認)

- ① 今後も双方で実施
- 2、団体が単独で実施
- 3、行政が単独で実施
- 4、事業はいったん終了すべき
- 5、その他 ( )

B：協働事業相互評価シート

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

「A：協働事業評価シート」に基づき、話し合った内容をご記入ください。

事業名	男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業
-----	---------------------

(1) 協働の「視点」

- ・話し合いをすることで、お互いの立場の理解し、共通の視点に立つことが大切である。
- ・お互いに折り合いながら、どちらかに合わせるのではなく話し合いを通して妥協点を見つけることが大事である。

(2) 事業「内容」の成果

- ・市民団体が単独で保育園等に紙芝居の上演の提案をしても、受け入れしてもらうことが難しいことがあるが、市との協働事業であるため保育園など10園での上演をする機会をつくることができた。また、市と協働することで、市民から信頼、信用性を得ることができ、市民団体としての活動範囲を広げることができた。
- ・子供たちの反応がよく、喜んでもらうことができた。共感してもらうことで、保育園児、幼稚園児、先生方にも楽しく男女共同参画を理解してもらうことができた。

(3) 事業全体の振り返り（その他、双方で気付いた点をご記入ください。）

- ・話し合うことで、お互いの立場や考え方を理解することが大切である。
- ・お互いに期待するものを、最初の段階ではっきり示すことが必要である。
- ・話し合いを通して、どちらかが合わせるのではなく、お互いの妥協点を見つけて出すことが大事である。
- ・契約内容（著作権、納期）について平成21年度の反省を生かして、お互いに話し合い平成22年度は改善することができた。

(4) 今後の方向性（再確認）

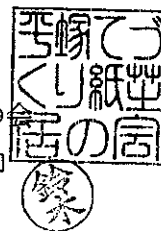
- ① 今後も双方で実施
- 2、団体が単独で実施
- 3、行政が単独で実施
- 4、事業はいったん終了すべき
- 5、その他（ ）

# 写 事業報告書

平成22年(2010年)3月31日

(あて先)  
平塚市長

団体名 平塚てづくり紙芝居の  
代表者氏名 鈴木 恵子 印



平成21年度男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業について、次のとおり事業報告いたします。  
記

## 1 実施内容

### (1) 対象幼児を調査した。

実施年月日	会場	内容
平成21年5月7日	平塚市役所A会議室	市立保育園園長会議で対象児童について意見を求めた。
平成21年6月2日	金田保育園	対象児童に紙芝居を上演デモンストレーションした。
平成21年6月17日	平塚市教育会館小会議室	市立幼稚園園長会議で対象児童について意見を求めた。

### (2) 男女共同参画推進紙芝居を製作した。(平成21年9月14日納品)

タイトル	ヒラヒラおばけとツカツカおばけ	
主な内容	<p>野球が好きな女の子、編み物が好きな男の子が祖父母や友達から女の子らしくない、男のくせにおかしいと言われて悲しんでいる所におばけが現れます。おばけとの交流を通じて、子どもたちは自分の好きなことはあきらめずに、元気を取り戻します。好きなことをあきらめず続ける姿が、祖父母や友達の考えを変えていきます。</p>	
期待される効果	子どもが喜び、子どもの目線で男女共同参画が理解できる内容で、誰でも簡単に演じることができる平塚らしい作品。	
主な仕様	B4版紙芝居サイズ13枚 表面フルカラー、裏面1色	

### (3) 男女共同参画推進紙芝居を10園で上演した。(別紙：様式1のとおり)

### (4) 男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業に関する広報活動に協力した。

ア 平成21年6月2日(火) 金田保育園、市民活動センター等において、平塚市広報番組「平塚ヒトビトマップ vol.18」撮影協力

イ 平成21年9月25日(金)の市長定例記者会見、新聞社等の取材協力(10月6日、10月16日)

以上

(様式1)  
 (提出先)  
 平塚市長

平成22年3月31日

上演実績報告書

	上演日時	会場	対象者	参加人数	上演 計画 の有 無	上演 従事者 数
				男 人 女 人 内：大人 人、子供 人		
記入例	年 月 日 ( ) 時 分～ 時 分	○保育園	5才児 保育士、保 護者	20人 内男8人 女12人 内大人4人、子供16人	有	3人
1	平成21年10月 6日(火)	夕陽ヶ丘保 育園	5歳児、保 育士	26人 内男11人 女15人 内大人3人、子供23人	有	2人
2	平成21年10月 7日(水)	若草保育園	4、5歳 児、保育士	55人 内男19人 女36人 内大人4人、子供51人	有	2人
3	平成21年10月 9日(金)	土屋幼稚園	5歳児、教 諭	24人 内男9人 女15人 内大人3人、子供21人	有	2人
4	平成21年10月 16日(金)	須賀保育園	3、4、5 歳児、保育 士	61人 内男30人 女31人 内大人6人、子供55人	有	3人
5	平成21年10月 20日(火)	明石町保育 園	4、5歳 児、保育士	40人 内男15人 女25人 内大人3人、子供37人	有	2人
6	平成21年10月 21日(水)	保育室きし ゃぽっぼ	1～5歳 児、保育 士、保護者	9人 内男3人 女6人 内大人5人、子供4人	有	2人
7	平成21年10月 22日(木)	平塚保育園	3、4、5 歳児、保育 士	70人 内男36人 女34人 内大人6人、子供64人	有	3人
8	平成21年11月 4日(水)	真土すばる 保育園	3、4、5 歳児、保育 士	79人 男32人 女47人 内大人6人、子供73人	有	2人

(次頁に続く)

9	平成21年12月8日(火)	金目幼稚園	4、5歳児、教諭	58人 男28人 女30人 内大人4人、子供54人	有	2人
10	平成21年2月12日(金)	吉沢保育園	4、5歳児、保育士	57人 男28人 女29人 内大人6人、子供51人	有	2人
合計 10回				479人 内男211人 女268人 内大人 46人、 子供 433人	有 10件 無 0件	22人



# 決算報告書

平成22年(2010年)3月31日

(あて先)  
平塚市長

団体名 平塚てづくり紙芝居の会  
代表者氏名 鈴木 恵子 印



平成21年度男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業について、次のとおり決算報告いたします。

## (収入)

区分	金額(単位:円)	内訳(内容、数量、単価など)
市からの委託料	100,000	
収入合計額	100,000	

## (支出)

区分	金額(単位:円)	内訳(内容、数量、単価など)
消耗品費	3,285	材料費、事務用品等
製作費	73,724	製作に係る研修費、通信費、資料等
上演費	2,300	上演に係る交通費等
支出合計額	79,309	

## (収支)

区分	金額(単位:円)	内訳
収支	20,691	

残額 20,691円は市へ返納いたします。

以上